【資料紹介】

翻刻　渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡

渡部寛一郎文書研究会
（要木純一・板垣貴志・内田融・大國由美子・大原俊二・居石由樹子・小林啓治・小林奈緒子・竹永三男・沼本龍・本井優太郎）

摘　要

渡部寛一郎文書は、渡部寛一郎日記、剪淞吟社に結集する人々の漢詩と関連文書、若槻礼次郎ほかの渡部寛一郎宛書簡、私立中学修道館など渡部寛一郎が関わった教育関係文書などで構成されている。中国文学・歴史学などの学際的研究によってこれらの諸文書を解読・分析し、近代日本の漢詩文学と政治家の文化的教養の関連を山陰地域に即して実証的に追究することが、我々の研究会のめざすところであり、今回の渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡の翻刻紹介は、その最初の試みである。

キーワード：渡部寛一郎　若槻礼次郎　克堂会　憲政会　漢詩

［解説］

本号には、本誌前号（『山陰研究』第七号、二〇一四年）に掲載した「渡部寛一郎文書目録（1）」（渡部寛一郎宛書簡目録）の中、「渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡」の前半部（大正期分）の翻刻を収める。「渡部寛一郎文書」の概要および渡部寛一郎の略歴については、本誌前号所載の「解説」を参照していただくこととし、本稿では、渡部寛一郎と若槻礼次郎の関係を示す史料の紹介から始めよう。

一九三五年三月二十八日、松江市床几山に若槻礼次郎の寿像が据え付けられた。その寿像は、「高さ一丈六寸の小豆島産の花崗石の臺石の上に、一丈七寸の堂々たる青銅のモーニング姿」であったが（『山陰新聞』一九三五年四月三日）、次の『山陰新聞』記事は、若槻礼次郎も出席して挙行された四月三日の除幕式当日の特集記事の一つである。

教へ子の思ひ出語る　旧師の眼頭に涙……
「昔から几帳面な勉強家だった」
渡邊（ママ）寛一郎翁の話

翻刻　渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡（渡部寛一郎文書研究会）

恩師渡部寛一郎翁を訪ひ若槻さんの幼少時を尋ねれば寄る年波□（でカ）耳の遠い□翁は感慨深げに令息啓次郎氏の介添で昔の思ひ出を語つた

若槻礼次郎は奥村の二男で小さい時から勉強が好きだつた。中学校を途中で止めてから大津小学校の先生をしてゐる十七、八歳の時自分のところに唐宋八家文がある事を知り訪ねて来て一冊づつ借りて行つては勉強し不審なところがあると松江に来てこゝ（ママ）玄関口で習つて行つたものだ。家へ上れと云つてもどうしても肯かずに土間にうづくまり熱心に自分の解釈を聞いてゐた。そして一冊を完全に習得するとそれを返しに来ては又次の本を借りて行つた。几帳面な勉強家で一寸他に類例のない子供だつた。偉くなる人物は幼少の頃からどこか違つてみへる。今でもこんな老人に何くれと便りを呉る……

（『山陰新聞』一九三五年四月三日）

恩師渡部寛一郎から所蔵の唐宋八家文を借覧し、それについて教示を得るために、勤務地の神門郡大津（現出雲市大津町）から松江市まで通い続けた青年教師若槻礼次郎は、内閣総理大臣を退いた後も、学恩を受けた渡部寛一郎に、折に触れて「便り」を送り続けていたというのである。その「便り」が、今回翻刻したものである。

若槻礼次郎は、大蔵省に出仕した後、大蔵省参事官から大蔵次官・大蔵大臣・内閣総理大臣と進み、その間、立憲同志会・憲政会・立憲民政党に参加した官僚出身の政党政治家であり、渡部寛一郎は、教育家・漢詩人として、若槻礼次郎の漢学・漢詩の師、若槻礼次郎と憲政会・民政党の島根県における後援者であり、自らも島根県会議員として島根県政に参画した人物である。この二人の結びつきの根幹をなすものが、漢学・漢詩という文化的教養であり、渡部寛一郎が会長を務める、若槻礼次郎の後援会・克堂会であった。

克堂会は、「若槻克堂後援ノ意味ニ於テ」一九一九年末より結成準備が進められた。一九二〇年二月二六日に原内閣が衆議院解散に打って出ると、総選挙（五月一〇日）を控えて行われた若槻礼次郎の島根県内遊説に合わせて、同年三月二五日、松江城山の興雲閣で発会式が開かれた（渡部寛一郎「大正九年三月起同十年末ニ至ル　日誌」）。結成された克堂会は、次の史料にみられるように、憲政会松江支部から候補者選定を委嘱されるなど重要な役割を果たした。

大正九年四月

一日。陰雨、（中略）正午后美談、生島両氏克堂会ノ件ニ付来談。此夜深更美談氏ノ案内ニテ草光氏憲政会松江支部幹部ノ決議ヲ代表シテ来訪松江の候補者撰定ノ件ヲ克堂会幹部ニ委嘱セリ（後略）

（渡部寛一郎「大正九年三月起同十年末ニ至ル　日誌」）

本号で翻刻紹介した渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡には、二人のこの関係がよく示されている。【表1】は、そのことを確認するため、内閣、帝国議会、総選挙の実施と若槻礼次郎書簡の関係が明確になるように、これを年次順に配列したものであるが、この表から読み取れることは次の諸点である。

第一に、伝存する若槻礼次郎書簡の中、最も古いものは、史料番号1【大正二年五月三十日付】である。第一次護憲運動の最中の一九一三年二月七日、長州藩閥で陸軍大将の内閣総理大臣桂太郎は新党立憲同志会の結成を発表した。しかし、国会を包囲する民衆運動の高揚の中で、桂内閣は総辞職し、若槻礼次郎も大蔵大臣の職を退いた。これに代わって薩摩藩閥・海軍大将の山本権兵衛が、立憲政友会と提携して組閣したが、若槻礼次郎のこの書簡は、以上のような情勢の中

で出されたものである。そこには、逆風の中で大蔵官僚・大臣から政党運動に身を投じた若槻礼次郎の、前途への不安と郷里の後援者への期待が、「政党運動ハ、初陣ノコトニ有之、同郷先輩ノ勢援ヲ仰クニアラサレハ、成功覚束ナク、自然間接直接ニ御援助ヲ賜ハリ度、切望之至ニ御座候」という言葉で率直に書き送られている。

渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡の中には散逸して伝存しないものがあるが（原洋二氏談）、伝存して「渡部寛一郎関係文書」中に多く残されているのは、一九二二年に高橋是清内閣が内紛を抱える一方で（史料番号2、3）克堂会の拡大が見られた時期（同4）、第二次護憲運動を経て展開する政党政治期である。そして、それらの書簡には、遊説活動報告（同4、6ほか）、一九二四年（大正一三）の総選挙での候補者擁立問題と選挙指導（同15）、本誌次号に掲載する床次竹二郎の脱党など民政党の内紛に関する報告など、若槻礼次郎と憲政会・民政党の政治・政党活動の中心問題が具体的に述べられている。一九二四年の選挙で、清浦奎吾内閣とその与党政友本党に対して護憲三派として戦った憲政会は、松江での候補者として佐藤球三郎を擁立した。若槻礼次郎は、松江での帰郷活動の後、出雲大社に参詣し、大田を経て広島・厳島神社に参詣し、佐藤候補の必勝を祈願して飯匕（しゃもじ）を神前に奉納したことを詠んだ漢詩「上厳島千畳閣」を載せている（同15）。その時の飯匕（しゃもじ）が史料番号14である（いずれも口絵とその解説参照。口絵解説は、居石由樹子の史料考証に基づき竹永三男が執筆した。）。このように、憲政会・民政党中枢と地方政治情勢との関連が、若槻礼次郎自身の筆で具体的に記されていること、これが第二に注目されることである。そのことを端的に示すのが、史料番号3の一九二二年（大正一一）六月一三日付の書簡（複写）と付随する同年六月二五日付の岡崎吉造宛渡部寛一郎書簡（「参考」として収録。複写）の二通である。前者で若槻礼次郎は、高橋是清内閣が閣内不統一で倒壊するという絶好の機会に憲政会が政権を獲得できず、却って海軍大将加藤友三郎（高橋是清内閣の海軍大臣）を首班とする内閣が立憲政友会を準与党として成立したことについて、その経過を臍を噛むともいうべき感情をあらわにして書き送っていた。そして、渡部寛一郎は、「同志」即ち憲政会のために尽力している岡崎吉造に、「時事」即ち中央政界の動向を承知するための「参考」として、予ての約束どおりこの若槻礼次郎書簡を「差出」したと、後者の短い書簡で述べていた。中央政界中枢の具体的情報は、若槻礼次郎と渡部寛一郎の間で交換される書簡によって、島根県・松江地域の憲政会勢力に詳細に伝達されていたことを確認できるものである。

第三に、若槻礼次郎は、渡部寛一郎宛のほとんどの書簡で自作の漢詩を書き送っている。それらは、遊説等で全国各地を訪ねた際に詠じたもの（史料番号4、6）、星岡茶寮で開催された詩会（同24）などの外、普選による最初の総選挙で民政党が躍進した際、その政治的高揚感をあからさまに詠じたものもあり（本誌次号で紹介する）、近代日本漢詩の作例としての意義とともに、近代政治史の特徴ある史料としての意義をもつものともなっている。抑も漢詩は、当代の文人・教養人が、詩作とその贈答を通して知的なつながりを形成するものである。そしてそれと同時に、若槻礼次郎に代表される官僚出身の政党政治家にとっては、詩作を通して幅広い人脈を形成することを可能にするものであると同時に、自己の政治思想を端的に表現する方法でもあった。遊説や総選挙の中で詠まれた若槻礼次郎の漢詩は、こうした官僚出身の政党政治家の幅広い活動と政治思想を分析する史料としての意義をも

つものでもある。

渡部寛一郎文書は、渡部寛一郎日記、剪淞吟社に結集する人々の漢詩と関連文書、若槻礼次郎ほかの渡部寛一郎宛書簡、私立中学修道館など渡部寛一郎が関わった教育関係文書などで構成されている。中国文学・歴史学などの学際的研究によってこれらの諸文書を解読・分析し、近代日本の漢詩文学と政治家の文化的教養環境の関連を山陰地域に即して実証的に追究することが本プロジェクトのめざすところであるが、今回の渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡の翻刻紹介は、その最初の試みである。

（竹永三男）

〔凡例〕

一本号では、「渡部寛一郎関係文書」（松江市新雑賀町・原洋二氏所蔵）から若槻礼次郎発渡部寛一郎宛書簡の大正期分を翻刻した。併せて同書簡群に含まれている他筆書簡及びその他資料を参考として採録した。

二書簡は年月日順に配列した。通し番号を付し、差出年月日を見出しとした。見出し下の数字は、資料調査時に付した整理番号である。

三差出年月日は、書簡に書かれた日付を優先し、消印、書簡内容からの推定により補った。

四漢字は原則として常用漢字体を用いた。

五合体字はカタカナ書きとした。

六句読点は原文にはないが、読みやすいように附した。句読点の付け方には統一的な基準はない。漢詩文の部分は一字下げた。

七不明文字・判読不能文字は、字数に従い、□□とする。字数が不明な場合は、［　　］を用いた。

八本文の文字サイズは同一とした。

九原文の改行は、特に必要と認めた場合以外は追い込みとした。

十適宜【　】または＊を付して注記を補った。

翻刻部分については、原文を渡部寛一郎文書研究会全員で読み合わせて解読した上で、居石由樹子が翻刻原稿を作成し、それに基づいて、研究会全員で点検、校訂を行った。

〔付記〕

本稿は、

島根大学法文学部山陰研究センター山陰研究プロジェクト

近代山陰の政治と文化―「渡部寛一郎関係文書」・「若槻礼次郎関係文書」に見る漢詩と政党政治の関係分析を通して―（課題番号一四〇一　期間二〇一四～二〇一六年度　代表　要木純一）

による成果の一部である。

〔翻刻　渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡　大正期分〕

1　大正二年五月三十日　2-1-53（調査時整理番号。以下同様）

拝啓。益々御清祥、奉慶賀候。先般貴地方出向之節ハ、種々御懇篤ナル御接遇ヲ辱フシ、御芳情不堪感謝候。何分、政党運動ハ、初陣ノコトニ有之、同郷先輩ノ勢援ヲ仰クニアラサレハ、成功覚束ナク、自然間接直接ニ御援助ヲ賜ハリ度、切望之至ニ御座候。去廿二日、帰京致候ニ付、茲ニ不取敢、御挨拶旁、寸楮如此御座候。　匆々敬具

五月卅日　　礼次郎

渡部老閣　几右

【消印】麹町2・6・1　浜田2・6・3

【封筒表】島根県浜田町　渡部寛一郎殿　侍史

【封筒裏】麹町中六番町　若槻礼次郎

2　大正十一年三月七日　2-1-40

【追伸】「半農氏健康如何。宜敷御伝声ヲ請フ。」

貴書拝読、益々御清健、奉敬賀候。政友会カ官権ヲ利用シ、私利ヲ営ミ候事実頻ニ曝露シ、政界之腐敗、長久息之至ニ御座候。昨今高橋首相大脱線之結果、内閣及党員間ニ動揺ヲ生シ、政府モ大苦痛ヲ感シ居候模様ニ御座候。亦貴族院ノ同志ハ猛然突撃、政府ニ余程ノ手傷ヲ負ハセ居リ申候得共、小生ノ恐ル、所ハ、中途軟化者ヲ生スルコトナキヤ否ヤニ有之候。日々ノ新聞紙ニテ、自然御注視被成下度候。委任会速記ハ、小生手許ニ有之候得共、乱雑ニ一束ニ致居候故、其中ヨリ、小生質問ノ記載アル分ヲ抽出スルコト、急ノ間ニ合ヒ兼候。孰レ議会ノ用務、稍少ク相成候時ヲ待テ、御送付可申上候。偶成一首、拝誦致候。瑶韻ヲ攀テ、駄作相試ニ申候。御笑覧被下度候。　匆々敬具

不是蝸牛角上争。欲将清議制専横。党朋相結競征利。思到邦家深慨生。

三月七日　　礼次郎

桃蹊先生　研北

【消印】牛込□1・3・7

【封筒表】松江市新土手　渡部寛一郎殿　親展

【封筒裏】牛込砂土原町　若槻礼次郎

3　大正十一年六月十三日【複写】　2-2-1

拝啓。益々御清福、奉敬賀候。陳者、政友会内閣カ辞表ヲ捧呈スルノ已ムナキニ至リタルハ、御承知之通ニ候処、改造ヲ企テ、之ニ失敗シタルハ、内部不統一ノ結果ニシテ、政策ニ付テ、行詰ヲ生シタルニアラスト称シ居候得共、彼等ノ改造ヲ企テタルハ、政策ノ失敗ニ依リ、民心ヲ失ヒタル為メ、閣員ノ更迭ニ依リ、目先ヲ新ニセント試ミタルモノニシテ、矢張政策ヲ誤リタル結果ニ外ナラス。今回ノ政変ハ全ク政友会ノ野垂死ニ存し候。彼等ヲシテ、此最後ヲ見ルニ至ラシメタルハ、憲政会カ其主張ヲ提ケ、常ニ正々堂々ノ陣ニ依リテ、彼等ノ弱点ヲ攻撃シタルニ本ツクモノニ有之候。則、政機ノ大勢ヲ窮取スル者ナラハ、之レカ後ヲ承ケ、政局拾収ノ任務ニ当ラシムルハ、憲政会ヲ措テ、他ニ無之ハ、誠ニ明瞭ノ事柄ニ有之候ニモ不拘、国民ト何等交渉ナク、貴族院ノ紈【衣偏に完の字に誤る】袴者流ヲシテ、内閣ヲ造ラシメタルコト、立憲治下ノ大変態ニシテ、吾人平等立憲ノ有終ヲ期スル者ノ、遺憾禁スル能ハサル所ニ御座候。結局、小生共ノ微力ナル平等ノ主張、能ク国内上下ヲ感孚セシムルニ至ラス、情実陰謀ノ余地ヲ存セシメタルニ依ル次第、何共面目無之、只々慚愧罷在候。事後ヨリ観察スレハ、

今回ノ事ハ永キ以前ヨリノ、薩派ノ陰謀ニ成リタルモノニ存し候様ニ有之、小生共ノ如キ愚直ノ者ハ何トナク嫌気ヲ生シ申候。元来、小生共政党ニ在リテ、国事ニ努力スルハ、単ニ政権ヲ獲得スルノ為メニハ無之、小生共ノ努力ニ依リ、国政ノ上ニ善政行ハル、ナラハ、必スシモ自ラ局ニ当ルニハ及ハサル次第ニ候得共、今日ノ如ク政府及政友会相結託シテ、中央地方ノ行政ヲ紊乱セシメ、之レカ為メ良民ハ遺憾ノ涙ヲ飲ムノ状勢ノ下ニ在リ而ハ、政権ヲ把握シテ、之レカ矯救ノ任ニ当ルコト、同志ノ期スル所ニ御座候ニ付、出来得ルナラハ我党ニ於テ、政機ノ枢軸ヲ握ルコト、御互ニ切望スル所ニ有之候得シニ、今回ノ如キ結末ニ至リ候コト、残念之至ニ存候。但、吾人ハ最善ヲ尽シ（世間ヨリハ最善ヲ尽シタリト見サルナランモ）タルニ不拘、陰謀ノ為メニ妨ケラレタリトセハ、其非ノ何レニ在ルカハ、明瞭ニ可有之候。此上ハ更ニ一段ノ勇奮ヲ以テ、一回ノ挫折ハ第二回ノ奮起ヲ促シ、二回ノ挫折ハ第三回ノ邁進ヲ促スト云フ如ク、一段ハ一段ヨリ勇気ヲ鼓舞シテ、憲政并ニ国家民人ノ為メニ努力致度、幸ニ倍旧ノ御後援、奉願上候。同志諸君ヨリ種々激励之言葉ヲ頂戴罷在候得共、多用ノ為メ一々返書ヲ認メ候コト相成兼候ニ付、小生ノ心事自然御伝へ被下、併テ多用ノ為メ返書ヲモ発スル能ハサルノ事情、御説明置被下度、祈ル所ニ御座候。　匆々敬具

六月十三日　　礼次郎

渡部先生　虎皮下

【消印】□□【牛込ヵ】11・6・14

【封筒表】松江市新土手　渡部寛一郎殿　親展

【封筒裏】牛込砂土原町　若槻礼次郎

九〇

参考　大正十一年六月二十五日

岡崎吉造宛渡部寛一郎書簡【複写】　2-2-2

＊前書に添えて岡崎吉造に宛てられたもの

謹啓。過般来、引続御配慮被下、為我同志、感謝此事御座候。別封克堂君書簡、御約束に任せ御手許へ差出候間、御保存被下度。時事に関し、多少にても御参考と相成候ハヾ、本懐之至存候。　頓首

六月廿五日　　寛一郎

岡崎吉造殿

4　大正十一年七月二十日　　2-1-9

拝啓。酷暑之砌、益々御清勝奉敬賀候。陳者、克堂会ノ為メに一方ナラス、御配慮被下、御蔭ヲ以テ、会員続々増加シ、今日之盛況ヲ見ルニ至リ候コト、何共御礼之申上様無御座、只々感謝罷在候ト申スノ外無之候。克堂会員ノ増加ハ、即チ不肖ニ対スル同情者ノ増加ニ有之、先輩旧友新朋カ、此ノ如クシテ小生ヲ後援被下候ヲ見、深ク之ヲ誇ト致ノミナラス、誠ニ心強ク感シ居ル次第ニ御座候。此中帰松致ノ節ハ、特ニ又御手厚キ御接遇ト、御面倒ナル御手数ニテ、恐縮罷在候。茲ニ謹而感謝之意ヲ表シ申候。理事其他会員諸君ニ、一々礼状可差出之処、此節柄、帰京致候テモ、用務非常ニ多端ニ有之、其意ニ任カセ不申候間、御序之節、宜敷御伝声之程、奉祈上候。舞鶴、大津、奈良共ニ非常ノ盛況ニテ、従来ノ影響ノ如何ハ何共難申候得共、遊説ノ目的ハ達シタル様存候。各地共、随分暑気甚敷候得シガ、只奈良ニテ、夕立ニ遭ヒタルハ、爽快ニ有之候。先ハ右御挨拶申上度、如斯御座候。　匆々敬具

七月廿日　　礼次郎

渡部先生　玉几右

遊説途中。自和歌浦到城崎温泉。

歌浦煙波崎峡泉。風光偏羨有奇縁。【偏羨の右に随処】若無一片間慮志。【間慮の右に憂時】淹月淹留学謫仙。【淹月の淹字の右に三】

松江所感

報国只存耿々忱。【只の右に唯】又追苦熱入山陰。人間自有真情味。毎到故郷感更深。【故の右に家】

奈良即興

黒雲駆雨到牖【牕または牖の誤りか】陰。忽送涼風満衣襟。挟筆爽然呼快処。雷声破耳落前林。

未定稿、御笑覧被下度候。奈良ニテハ、揮毫中、俄ニ夕立有之、庭前近キ処ニ、落雷候故、転結之ニ及ヒタル次第ニ御座候。御斧正被下度、耐雪先生ノ添削ヲ得ハ、特ニ仕合ニ存候。

【消印】牛込11・7・20

【封筒表】松江市新土手　渡部寛一郎殿　親展

【封筒裏】牛込砂土原町　若槻礼次郎

5　**大正十一年七月二十一日**　2-1-13

拝啓。昨日一書拝呈致置候処、書漏シ候所有之、左ニ附加へ申候。即半農氏ニ宜敷御伝言被下度、特ニ銅像一件可然様ニ御取成シ置之程祈上候。又克堂会出席員及松崎水亭殿町倶楽部出席員ニシテ、小生挨拶状（印刷シアルモノ）、差出可申人名、御面倒ナカラ御送付被下度、美談氏ヲシテ送付セシメ被下候テモ、宜敷御座候。悪詩供御笑覧ノ処、孰レモ頗ル落付宜シカラス、其中奈良即興ノ分ハ、平仄ノ間違アルヲ発見候ニ付、同シク落付悪キ為、左ノ如ク訂正致度存候。

黒雲出岫豈無心。大雨浡然涼満襟。【浡の右に沛】起倚欄頭呼快処。雷【上に迅を加える】声【声の右に抹消点】破耳落前林。

七月廿一日　　礼次郎

渡部先生　几右

【消印】牛込11・7・21

【封筒表】松江市新土手　渡部寛一郎殿　親展

【封筒裏】牛込砂土原町　若槻礼次郎

6　**大正十一年九月六日**　2-1-22

拝啓。残暑尚厳敷御座候処、益々御清祥、慶賀之至存候。一昨日、夜行汽車ニテ、姫路ニ到リ、昨日午后、同地劇場ニテ、演説ヲ為シ、夕刻、自働車ニテ、姫路城ノ周囲ヲ一巡シ、旗亭ニテ、同志ト宴ヲ共ニシ、夜九時、同地発ノ汽車ニテ帰東、只今帰宅致候。姫路道ノ事、二首、御笑覧ニ供シ候。御添削之程、不堪切望候。　匆々敬具

晩白鷺城々下洲。東山吐月正新秋。制先即是成功決。頓憶雄心羽筑州。【頓憶雄心の右に想到当年】

納涼共酌水辺楼。佳麗周旋叨献酬。【佳麗の右に名妓】不怪氷輪明似鏡。【不怪の右に別愛】若無閏月是仲秋。【仲の右に中】

九月六日　克堂生

渡部先生　几右

【消印】□□11・□・6

【封筒表】松江市新土手　渡部寛一郎殿　侍史

【封筒裏】牛込砂土原町　若槻礼次郎

7　**大正十一年九月十六日**　2-1-2-4

奈何治道逸常規。西走東奔豈好奇。昨被旛南残暑悩。秋初更向古蝦夷。

九月十六日　克堂

【消印】□□11・9・17

【葉書宛名】松江市新土手　渡部寛一郎殿

【葉書裏面写真説明】（函館要塞司令部御許可）函館逢（ママ）莱町通り

8　**大正十一年九月二十八日**　2-1-2-1

高洲忍路豈敢望。只許同臻磯谷岡。情緒綿々聴不尽。離人臨別断愁腸。

聴追分曲戯作　克堂

【消印】□□11・□・28

【葉書宛名】松江市新土手　渡部寛一郎殿

【葉書裏面写真説明】阿寒湖瀧口附近の勝景（花輪日曜堂発行）

9　**大正十一年九月**　2-1-1-1

秋入茂林進樹涯。欲催深翠浅紅霞。殊郷自有殊時気。途見満開百合花。

根室途上所見

汽車中ニテ　克堂

【消印】池田野付牛間11・□□

【葉書宛名】松江市新土手　渡部寛一郎殿

【葉書裏面写真説明】帯広停車場前小泉北海館新室二［　］

10　**大正十一年十一月五日**　2-1-1-4

大正壬戌十月詞、日向延岡諸友遊吉田提香魚。席上賦似。

晴川漁獲大。旗亭学酔仙。得魚還自笑。吾輩豈忘筌。

日北風和秋若春。間添霜葉似花晨。旗亭同酌強吾意。悉是舎魚取掌人。

十一月五日　克堂

【消印】□□11・11・5　松山11・11・6

【葉書宛名】松江市新土手　渡部寛一郎殿

11　**大正十一年十二月三日**　2-1-36

月白風清気著秋。今宵随処継蘇遊。安求縞袖玄裳鶴。飛様碧雲湖畔楼。

何用中流堪画橈。高楼迎月賞良宵。酒美魚鮮須痛飲。況有嬋妍似二喬。

誰言異域共登台。歓語応酬笑口開。多謝坡仙詞賦妙。一年両度作良媒。

【消印】牛込11・12・3

【封筒表】松江市新土手　渡部寛一郎殿　侍史

【封筒裏】牛込砂土原町一ノ一　若槻礼次郎

12　**大正十一年十二月三日**　2-1-37-1

壬戌方逢十月望。今宵無処不清光。料知崎峡仙居夢。飛到碧雲湖畔荘。

巨口細鱗郷味鮮。誰蔵斗酒待帰船。橋南橋北亭多少。酔臥任君抱月眠。

坡老後遊之日賦。呈半農酔仙、併似桃蹊先生。　克堂若槻礼

拝草

参考　**大正十一年十二月**新聞記事切り抜き　2-1-37-2

【見出し】後赤壁紅葉館の雅集（水野内相を招待）結城　蓄堂

＊紙名他未詳、本文略。

13　大正十三年三月一日　2-1-29

拝啓。此中御書面有之候得共、先便御答申上候所ニテ、要領相尽候故、別ニ書状差出不申候処、明日ヨリ各地旅行致候ニ付、一筆申進候。松江市佐藤球三郎氏、大分意動キ候様ニ存候。是非同氏擁立候様、百方御説得願上候。第三区ニテハ木村氏ヲ抱立ツル筈ニ存候。同氏ハ高橋氏ノ意中ヲ憚リ躊躇致居候様ニ存候。高橋氏ト御相談、是非木村氏ヲ決意セシメ被下度候。第五区ハ俵氏ヲ出馬セシメ、島田氏ハ第四区ニ廻ハラシメ度ト存候得共、島田氏承諾セス、依テ第五区ニテハ俵、島田両雄、相争フコトニ可相成存候。右御含被下万御取運被下度、不堪切望候。　匆々敬具

三月一日　礼次郎

渡部先生

渡部克堂会長有望富士山有感作、見眎、次韻賦是。

本是神州精気鍾。秀霊何覚玉芙蓉。行蔵我有三綱領。不問坦途与峻峰。

【消印】□□3-2

【封筒表】松江市新土手　渡部寛一郎殿　親展

【封筒裏】牛込砂土原町一ノ一　若槻礼次郎

14　大正十三年三月二十九日　【杓子郵便】　整理番号無し

必勝ヲ期ス

三月廿九日

若槻礼次郎　【焼印】「宮島」【標章】「宮忠製」

【消　印】厳島　1□　□2□

【杓子裏】松江市新土手　渡部寛一郎殿

15　大正十三年三月三十日　2-1-12

拝啓。益々御清祥、奉敬賀候。此中帰松之際ハ種々御厚配ニ預リ、何共御礼之申上様無之、只々感謝申上候ト申スノ外、無御座候。松江市ノ候補ニ付テハ、人ノ知ラサル御苦心、是亦感佩措ク能ハサル所有之候。佐藤球三郎氏決意致候以上ハ如何ニシテモ、同氏ヲ当選セシメサルヲ得ス。万事宜敷御願申上候。半農氏モ、此時合、無関心ニ傍観スヘキニアラス、必ス相当ノ努力ヲ為スナルベク、同氏ノ活動スヘキ時期方法等ハ、桑原氏ト御協議被下、球三郎氏ニ御注意被下度祈上候。出雲滞在中、大社参詣ノ際、石州太田福田孫太郎氏ニ邂逅、石州通過ノ記念トシテ何カ一詩ヲ試ムベシトノ注文有之、折腰淞北詩家迄書通致置候処、二三ノ文字改訂致候ニ付、左ニ相認メ、御是正相願候ト共ニ、淞北氏ニ改訂ノ旨、御話被下度候。尚又厳島ニテ佐藤球三郎氏ノ勝利ヲ祈ル為メ、左記ノ駄作相試ミ申候。併テ御笑添被下度度【衍ヵ】奉願上候。　匆々敬具

三月卅日　礼次郎

渡部先生　研北

自今市至太田汽車中之作。書寄福田孫太郎君。

天辺雪色認遙峯。入眼雄姿毎改容。行到太田観更大。三瓶山是玉芙蓉。

上厳島千畳閣

豊公雄略壓韓天。千畳閣高四百年。欲為友人祈勝利。献来飯匕賽神前。

【消印】【不鮮明。切手部分切除】

【封筒表】松江市新土手　渡部寛一郎殿　親展

【封筒裏】【印字】「大阪市北区堂島中町二丁目　旅館自由亭

電話　長北　五一〇番　　長北一四八二番」

【手書き】「若槻礼次郎　大正十三年三月卅日」

16　**大正十三年四月二日**　　2-1-35

拝啓。一昨卅一日夜、帰京致候。来六日ヨリ、又々九州四国ニ向テ発程、本月一杯ヲ費ヤシ、来月ニ入ラサレハ、帰宅致サヽルヘク、万事宜敷御願申上候。特ニ克会諸氏ノ間ニ意見ノ齟齬有之候テハ、大ニ不利ト存候間、人心ノ和ヲ失ハサル様、御調節被下度奉祈上候。茲ニ御礼ヲ兼、御願申上度、如斯御座候。　匆々敬具

四月二日　　礼次郎

渡部寛一郎殿

呈桃蹊渡部先生

育英養俊久方神。学界藝林老正新。言与不言何処問。桃雲李雪自怡人。

乞正　　克堂

呈半農半仙園主人

懶逐炎涼問渡津。微才勤力為斯民。胸中若試問君語。半是仙人半俗人。

【消印】牛込［　　］2

【封筒表】松江市新土手　渡部寛一郎殿　親展

【封筒裏】牛込砂土原町一ノ一　若槻礼次郎

17　**大正十三年九月十九日**　　2-1-48

拝啓。益々御清康、奉敬賀候。陳者、半農氏葬儀ニ於テ、小生追悼詩、御代読被下候ノミナラス、前後ニ名文ヲ添ヘラレ、拙作ニ光彩ヲ生セシメ被下候段、感謝申上候。来月之初、帰松ノコトニ内定致居候処、其頃、予算問題ニテ、東京ヲ離レ難キ予定ニ付、帰松ハ之ヲ延期シ、来月二十二三日頃ト致申候。但シ帰松致候節ハ、御来書ノ通リ、売豆紀神社参拝、其他小学校出席ノコトニ致可申候。御意御示被下、難有感吟致候。御推賞ノ詩句ハ、却而赤面致申候。右御礼迄、如斯御座候。

匆々敬具

九月十九日　　礼次郎

渡部先生　几右

【消印】松江13・9・22

【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　侍史

【封筒裏】牛込砂土原町一ノ一　若槻礼次郎

18　**大正十三年十月八日**　　2-1-52

拝啓。益々御清適、奉慶賀候。陳者、来十月十一日ハ、古暦九月十三日に相当候ニ付てハ、後之月を観るか為、柳橋柳光亭に於テ、小宴を設け度と存候間、御繰合、同日午後六時御臨席被下度、不堪切望候。尚厲樊榭九月十三日夜月を詠したる左之詩の韻を用いられたる五律、御持参被下候はゞ仕合と存上候。

夜静楼陰直。蕭寥犬吠闌。江声喧歳稔。霜信壓秋残。桃葉経教誦。巴童薬遣丸。無眠五更転。隙月近人寒。

右得尊意度、如斯御座候。　匆々敬具

十月八日　　若槻礼次郎

渡辺寛一郎殿

【消印他】司法省13・10・8　速達郵便

【封筒表】市外池袋町五八二曳野良一方

渡辺寛一郎殿

【封筒裏】若槻礼次郎

19　**大正十三年十月十一日**　2-1-7-2

甲子古暦九月十三夜、招吟友諸賢、観月於澪水柳光亭、席上賦二律、用厲樊榭九月十三夜月詩韻。　克堂若槻礼

佳会迎仙客。賡酬興正闌。水光涵渚浄。蟾影入江残。乾坤容傲骨。茲序送流丸。洗杯還更酌。蹐巷柝声寒。

詩興如雲湧。尽歓到夜闌。龍蛇衝紙躍。珠玉迸唇残。楼頭吹鉄笛。酔裏説金丸。此中情味暖。何怯晩秋寒。

20　**大正十三年十一月六日**　2-1-1-2

鶴駕北巡観演兵。秋天高朗気澄清。陪従最喜民風美。到処歓迎出至情。

十一月六日　克堂

【消印】□□13・11・7

【葉書宛名】松江市新土手　渡部寛一郎殿

【葉書裏面写真説明】大正十三年特別大演習記念統監部

21　**大正十三年十二月十日**　2-1-41

二宮別荘ニ在ル松浦鸞洲伯ヨリ、天空海闊楼観月詩集ヲ贈リ来候ニ付、同伯ニ寄懐スル意味ヲ以テ、左ノ七絶、書送致置候。御一笑被下度候。

柳密何妨繫紫瑠。梅低尚可放青牛。超然覆雨翻雲外。人椅天空海闊楼。

松浦伯ノ二宮別荘ハ、梅沢荘ト名ツケ、其楼ハ天空海闊楼ト称シ居候。

【消印】麹町13・12・10

【封筒表】松江市新土手　渡部寛一郎殿　親展

【封筒裏】牛込砂土原町一ノ一　若槻礼次郎

22　**大正十四年一月五日**　2-1-25

新年之御慶、芽出度申納候。本年、亦倍旧ノ御援助、御同情、奉願上候。旧臘盲腸炎ニ悩マサレ候際ハ、電報并ニ書面ヲ以テ、御見舞被下、御厚情不堪感謝候。其節御返信モ不申上、何共失礼ノ次第ニ候得シカ、実ハ小生ハ医師ヨリ絶対安静ヲ命セラレ居、家族ハ少数ナル上ニ、看護ノ為メニ忙殺セラレ居、彼此ニテ、何方ヘモ書信致サヽリシ儀、不悪御思召被下度祈上候。幸ニ病気頗ル軽ク、一週間許リニテ軽快、今日ニテハ殆ント平常ニ復シ候間、乍憚、御省慮賜ハリ度候。拙作三首御笑添ニ供シ、御是正願上候。　匆々敬具

一月五日　礼次郎

桃蹊先生　玉膝前

【消印】牛込14・1・5

【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　侍史

【封筒裏】牛込砂土原町一ノ一　若槻礼次郎

23　**大正十四年四月八日**　2-1-1-3

貴書拝見。昨日興津ニ来下、本日暖気勝地巡遊夕刻帰京ノ筈ニ御座候。三保松洲翠色新。籬花沙鳥逐吟身。逍遙半日煙嵐裡。洗尽胸中万斛塵。憂国至情無弟兄、論難半載制初成。蓮峯秀色例牽眼。今日看来一段清。

克堂未定稿

【消印】静岡14・4・8

【葉書宛名】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿

【葉書裏面写真説明】清水市名勝三保松原海浜【印】三保松原遊覧記念

24　**大正十四年五月十日**　2-1-17

拝啓。益々御清栄、奉敬賀候。松江市会議員選挙ハ、同志多数ノ勝利ヲ以テ終了致候内示、厚御尽力被下候結果、茲ニ至リタルモノニ有之、此機会ニ於テ、感謝申上候。昨年柳光亭ニテ雅会相催候節、参会致候人々、一会相催シ度ト希望ヲ起シ、且今後時々会合シテ、永ク継続致度トノコトニテ、一昨八日、星岡茶寮ニテ、詩会ヲ開キ、今回ニ限リ、松浦伯及小生ハ、賓客ノ取扱ヲ相受ケ申候。貴台御在京ナラハ、是非御出席ヲ得度ト申候得シモ、其希望ヲ充タスコト能ハサリシハ、遺憾ニ存候。各自持寄リ候詩及席上ノ率賦、若クハ聯句ハ、小冊子ト為スヘキニ付、入手候ハヽ、御送付可申上候。拙作丈ケハ末尾ニ記載シ、貴覧ニ供シ候。其中一首ハ淞北先生ノ添削ヲ得タルモノニ有之候。御序ニ全部ニ対スル同先生ノ批評、御求メ被下度、不堪切望候。　匆々敬具

五月十日　礼次郎

渡部寛一郎殿

星陵雅集。用戴昺初夏小集詩韻。

星陵趁清約。敲裏句難成。浩気動将餧。機心稍欲平。杜鵑新緑影。石馬落花声。金谷先甘罰。酡顔対晩晴。

同用沈徳潜意行詩韻（客秋鸞洲伯爵開観月筵於相之天空海闊楼。第三句故及）

詞友無塵意。何須費問尋。論文思海澨。修讃擬山陰。竹色沼池近。茶煙穿樹深。嬋娟呼侑酔。牽我未灰心。

席上率賦二首

飛江断送晩春天。緑樹重陰山館前。佳会喜為塵外客。杯樽擬学酒中仙。秉燭夜遊桃李園。人間安此雅懐存。星陵今夕随詩友。最喜賡酬忘世煩。

分字得四

苦吟移漏難成酔。黙滴繞簷松雨翠。休道春光去無痕。酒辺剰見花三四。

【消印】東京中野14・6・1

【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　侍史

【封筒裏】外桜田町官舎　若槻礼次郎

参考　**大正十四年十月六日【ガリ版】**　2-2-5

粛啓

玉露金風ノ好季節ニ御座候処、愈々御清廸ニ被為渉、奉大賀候。偖而、御繁劇中恐入リ候得共、本月三十日（金曜日）夕ハ、恰モ陰暦九月十三夜ニ当リ候ニ付、昨年同様雅集ヲ催シ度、何卒万障御繰合ハセノ上、同日午後五時ヨリ、柳橋柳光亭へ、御来臨被成下度、願上候。別ニ古人ノ詩ヲ認メ置キ候得者、其ノ詩韻ニ依レル御瑤什、御示シ被下候様、願上候。尚ホ御出席ノ有無ハ、乍御手数、二十六日マテニ、御一報奉願候。時下、朝夕寒冷ノ砌、御自愛専一ニ奉祈候。不取敢、御案内マテ、如此ニ御座候。　敬具

大正十四年十月六日　若槻礼次郎

【手書き】「桃蹊詞伯　函丈」

江楼感旧　唐　趙嘏

独上江楼思渺然。月光如水水如天。同来望月人何処。風景依稀似去年。

巴陵与李十二裴九汎洞庭　唐　賈至

楓岸紛紛落葉多。洞庭秋水晩来波。乗興軽舟無近遠。白雲明月弔湘娥。

参考　**大正十五年春初**　華甲自寿【活版・一紙に印刷】　2-1-5

華甲自寿

窮達世途難自開。行蔵夙昔任人哈。拾薪霜重松江畔。負笈雲遙墨水隈。原憲家貧能楽道。陳平志大不誇才。加餐祈寿請毋訝。王事有時煩我駘。

不是矜奇抗世風。生来難学叩頭虫。鵬雲鯤浪児時夢。舜地堯天老後衷。熱血大臣推曼叟。温顔宰相憶虞翁。齢踰耳順還私喜。健舌依然気吐虹。

只合江湖伴釣童。如今廊廟負漁翁。欲教厨下酒常満。遮莫杖頭銭屢空。幽蕙香芬煙幙外。孤梅影澹雪窓中。居高在遠君休問。向日葵心到処同。

丙寅春初　　克堂　若槻礼　拝草

参考　**大正十五年春初**　渡部寛一郎自筆漢詩　2-1-43-1

大正丙寅春初、奉賀克堂若槻内相華甲、攀自寿瑤韻、三首。

華甲今年初度開。自公退食一歓咍。身居黄閣朱堂裡。心向青山白水隈。在野常論経国策。立朝更振済時才。新詩祝寿攀騏尾。愧我誠迂似駑駘。

起居常慕古賢風。且戒淫書成蠹蟲。不独登朝為献替。好教同列保和衷。人生得失徴青史。世道窮通任碧翁。別有詞才驚等輩。篇々詩気吐長虹。

齢躋華甲貌猶童。相見人呼不老翁。夙喜淞南鵬類出。且知冀北馬群空。倹勤化及京畿外。燮理功成台閣中。更見至誠能待士。賢臣懐抱古今同。

松江　桃蹊学人寛拝具

【落款】「渡部寛印」「桃渓」

【封筒表】克堂氏書小幅在中　桃蹊

参考　**大正十五年二月八日**　若槻徳子発渡部寛一郎宛書簡1　2-1-42

拝啓。益々御清祥、奉賀候。陳者、此度之親任ニ付、御鄭重ナル御祝辞ヲ賜ハリ、難有奉存候。且宅ニ御注意被下、奉感謝候。尚又、御奥様之御心ヲ籠メラレ候結構ナル鯛、御恵贈之御芳情、厚ク御礼申上候。先ハ右不取敢御礼申上度、如此御座候。折柄、少々風邪之気味ニテ、臥床罷在候間、乍失礼、代筆ニテ。可祝

二月八日　　若槻徳子

渡辺寛一郎様　侍史

【消印】東京中野　15・2・8

【封筒表】松江市雑賀　渡辺寛一郎様　侍史

【封筒裏】麹町区外桜田町　若槻徳子

参考　**大正十五年中秋**　柳光亭雅集関係［異筆切紙五紙一括］

＊②～⑤の配列は若槻自詠漢詩集稿『忙中閑草』に従った。

①　2-2-8

八月十五夜。宿鶴林寺翫月。

唐　許渾

待月東林月正円。広庭無樹草無煙。中秋雲浄出滄海。半夜露寒当碧天。輪影漸移金殿外。鏡光猶挂画楼前。莫辞達曙殷勤望。一堕西巖又隔年。

②　2-2-10

丙寅中秋。継前遊、賞月於二州橋畔柳光亭。用唐許渾宿鶴林寺翫

月詩韻、賦以索和。

克堂　若槻　礼

節値中秋大月円。不知世上有塵煙。清光穿樹霜敷地。顥気横江鵲過天。容易素娥臨研右。可憐紅袖侍樽前。佳賓依例嫌虚礼。酣醉何妨勝去年。

③　2-2-7

古中秋。柳光雅集。席上賦此。

克堂　若槻　礼

江亭邀客卜良辰。十里長流水似鱗。看到金波揺盪外。暮雲如綺掛氷輪。【割注】「外一作上」。

④　2-2-9

丙寅中秋。継前遊会雅友於二州橋畔柳光亭。此夕無月。用唐許渾宿鶴林寺翫月詩韻、賦以似諸賢。

克堂　若槻　礼

綺閣不看江月円。良宵底事雨如煙。可無鉅手排雲霧。却有明眸照水天。酒客風懐三鼓後。詩人秋思一燈前。慧心小髻能迎意。話到曽游説去年。

⑤　2-2-6

古中秋。無月。柳光雅集。席上賦此

克堂　若槻　礼

嫦娥嬌面杳難看。何処雲間是広寒。幸有吟心団似月。水晶燈影倚闌干。

参考　大正十五年九月二十二日付東京日日新聞切り抜き　2-2-4

【見出し】名月に美酒を酌んで　天下の騒ぎもドコ吹く風と

若槻さんの閑日月

＊柳光亭雅集の模様を報じた記事　本文略

欄外に「東京日日新聞」の墨書あり

＊資料番号9の消印の判読不明部分について、北見市総務部市史編さん主幹斉藤幸喜氏の御教示を賜った。感謝申し上げる。

【表１】若槻礼次郎発・渡部寛一郎宛書簡の政治史上の位置―内閣・帝国議会・総選挙との関係

内　閣（総理大臣・発足年月日）	帝国議会		総選挙		渡部寛一郎宛書簡					渡部寛一郎経歴	若槻礼次郎経歴
	回	開会年月日 閉会年月日	回	執行日	発信年月日	史料番号	目録番号	発信人	内容		
桂太郎③ 1912.12.21	30	1912.12.27 1913.3.26								1907-1916 浜田高等女学校長	1912.12. 大蔵大臣
山本権兵衛 ①1913.2.20					1913.5.30	1	2-1-53	若槻礼次郎	政党運動は初陣のため、同郷の先輩の応援を要請		1913.12. 立憲同志会創立、入党
大隈重信内閣（1914.4.16）・寺内正毅内閣（1916.10.9）・原敬内閣（1918.9.29）……書簡なし										1920-1938 松南教育会会長 1920-1925 克堂会会長	1914.4-1915.8 大蔵大臣
高橋是清 1921.11.13	45	1921.12.26 1922.3.25			1922.3.7	2	2-1-40	若槻礼次郎	高橋内閣の大脱線、動揺。議会報告を約束。「党朋相結競征利」漢詩	1921-1938 松江市聯合教育会会長	
加藤友三郎 1922.6.12					1922.6.13	3	2-2-1	若槻礼次郎	高橋内閣改造失敗で瓦解、加藤内閣批判		
					1922.6.25	参考	2-2-2	渡部寛一郎	岡崎吉蔵宛、2-2-1 を時事参考のため提示		
					1922.7.20	4	2-1-9	若槻礼次郎	克堂会員の増加を感謝、遊説の盛況を報告遊説途次漢詩、松江所感漢詩		
					1922.7.21	5	2-1-13	若槻礼次郎	追伸。銅像一件取り成し依頼。克堂会、殿町倶楽部員中案内送付者連絡依頼。奈良漢詩訂正		
					1922.9.6	6	2-1-22	若槻礼次郎	姫路遊説。漢詩		
					1922.9.16	7	2-1-2-4	若槻礼次郎	「函館逢莱町通り」絵葉書、漢詩		
					1922.9.28ヵ	8	2-1-2-1	若槻礼次郎	「阿寒湖瀧口附近」絵葉書、漢詩		
					1922.9	9	2-1-1-1	若槻礼次郎	「帯広小泉旅館」絵葉書、漢詩		
					1922.11.5	10	2-1-1-4	若槻礼次郎	「太宰府神社梅園」絵葉書、漢詩。松山で投函		
					1922.12.3	11	2-1-36	若槻礼次郎	漢詩		
					1922.12.3	12	2-1-37-1	若槻礼次郎	漢詩		
	46	1922.12.27 1923.3.26									

内閣（総理大臣・発足年月日）	帝国議会		総選挙		渡部寛一郎宛書簡					渡部寛一郎経歴	若槻礼次郎経歴
	回	開会年月日 閉会年月日	回	執行日	発信年月日	史料番号	目録番号	発信人	内容		
第二次山本権兵衛内閣（1923.9.2）……書簡なし											
清浦奎吾 1924.1.7	48	1923.12.27 1924.1.31 解散									
					1924.3.1	13	2-1-29	若槻礼次郎	島根県各選挙区候補者擁立情勢と依頼。漢詩「本是神州精気鍾」		
					1924.3.29	14	杓子郵便	若槻礼次郎	宮島杓子に「必勝ヲ期ス　三月廿九日　若槻礼次郎」と記す。【図１】【図２】		
					1924.3.30	15	2-1-12	若槻礼次郎	帰松時の世話御礼。松江市の候補者擁立問題。石見での漢詩。【図３】～【図５】		
					1924.4.2	16	2-1-35	若槻礼次郎	九州・四国行き。漢詩		
			15	1924.5.10							
加藤高明 1924.6.11	49	1924.6.28 1924.7.18									1924.6. 内務大臣
					1924.9.19	17	2-1-48	若槻礼次郎	予算問題のため帰松予定を 10 月下旬に延期。売豆紀神社参拝、小学校出席予定		
					1924.10.8	18	2-1-52	若槻礼次郎	10 月 11 日の柳橋柳光亭の観月詩会の案内		
					1924.10.11	19	2-1-7-2	若槻礼次郎	柳橋柳光亭での観月詩会での漢詩		
					1924.11.6	20	2-1-1-2	若槻礼次郎	「陸軍特別大演習」記念絵葉書に漢詩		
					1924.12.10	21	2-1-41	若槻礼次郎	松浦鸞洲伯から贈られた『天空海闊楼観月詩集』への返詩		
	50	1924.12.26 1925.3.30									
					1925.1.5	22	2-1-25	若槻礼次郎	昨年末の盲腸炎への見舞いに対する返礼		
					1925.4.8	23	2-1-1-3	若槻礼次郎	興津行き。「三保松原海浜」絵葉書、漢詩。		
					1925.5.7		2-1-51	若槻徳子	贈られた甘鯛の御礼（次号掲載）		
					1925.5.10	24	2-1-17	若槻礼次郎	松江市議選尽力への御礼。5 月 8 日星岡茶寮での詩会報告。漢詩		
					1925.10.6	参考	2-2-5	若槻礼次郎	10 月 30 日の柳光亭観月詩会の案内と漢詩		
若槻礼次郎 ①1926.1.30	51	1925.12.26 1926.3.25			1926.1.	参考	2-1-5	若槻礼次郎	「華甲自寿」	1926-1930 島根県議会議員	1926.1.-1927.4. 内閣総理大臣
					1926.1.	参考	2-1-43-1	渡部寛一郎	漢詩三首		
					1926.2.8	参考	2-1-42	若槻徳子	内閣総理大臣親任祝賀に対する返礼		
					1926	参考④	2-2-9	若槻礼次郎	中秋観月詩会（柳光亭）での漢詩		

内閣（総理大臣・発足年月日）	帝国議会		総選挙		渡部寛一郎宛書簡					渡部寛一郎経歴	若槻礼次郎経歴
	回	開会年月日 閉会年月日	回	執行日	発信年月日	史料番号	目録番号	発信人	内容		
田中義一 1927.4.20	53	1927.5.4 1927.5.8									
					1927.10.4	以下次号掲載予定	2-1-33-2	国府種徳	号犀東。若槻礼次郎帰松に際し漢詩二首		
					1927.10.5		2-1-32	若槻礼次郎	国府種徳に漢詩添削を求め、漢詩を寄せられたこと。若槻の漢詩（2-1-33-1）		
					1927.10.27		2-1-18	若槻礼次郎	帰県中の厚遇への御礼。松江出発時の漢詩		
					1927.11.		2-1-47	若槻礼次郎	帰県中の厚遇に再度御礼。国府種徳添削の漢詩		
					1927.11.4		2-1-30	若槻礼次郎	渡部寛一郎の上京予定通知書簡への返信。荒川嶺雪作品鑑賞後の漢詩		
	54	1927.12.26 1928.1.21 解散									
			16	1928.2.23	1928.2.23		2-1-6	若槻礼次郎	総選挙大勝の歓びと漢詩。普選の精華を謳歌		
					1928.3.21		2-1-11	若槻礼次郎	津森翁の逝去追悼。伊東の小廬を東久世伯の扁額に因み古風庵と称す		
	55	1928.4.23 1928.5.6									
					1928.9.11		2-1-10	若槻礼次郎	床次脱党など民政党の内紛に付き説明。内村鱸香追贈の件、潮内務次官に発簡。漢詩		
					1928.11.6		2-1-2-3	若槻礼次郎	上洛時の滞在先通知		
					1928.11.10ヵ		2-1-45	渡部寛一郎	御大典参列に際し漢詩		
	56	1928.12.26 1929.3.25									
					1929.3.29		2-1-19	若槻礼次郎	議会閉会日前後で渡部寛一郎紹介の人物に会わず、寄付の件につき考えを通知。漢詩		
浜口雄幸 1929.7.2					1929.7.24		2-1-38	若槻礼次郎	北海道鉄道局長栄転の大江香峰送別詩会への誘い		1929.11. ロンドン軍縮会議首席全権
					1929.10.16		2-1-15	若槻礼次郎	山陰大詩会の漢詩の感想。ロンドン軍縮会議全権の抱負と日程		

内閣（総理大臣・発足年月日）	帝国議会		総選挙		渡部寛一郎宛書簡					渡部寛一郎経歴	若槻礼次郎経歴
	回	開会年月日 閉会年月日	回	執行日	発信年月日	史料番号	目録番号	発信人	内容		
浜口雄幸	57	1929.12.26 1930.1.21 解散	17	1930.3.20	1930.2.1	次号掲載予定	2-1-49	若槻徳子	賀状と卵焼の礼状		
					1930.9.20		2-1-23	若槻礼次郎	10月の帰松日程。先祖供養を目的、観月筵出席は未定。漢詩		
					1930.10.22		2-1-27	若槻礼次郎	帰県時の厚意への御礼。漢詩		
臨時代理 幣原喜重郎 1930.11.15	59	1930.12.26 1931.3.27			1930.12.27		2-1-39	若槻礼次郎	病気見舞い。上京中の渡部寛一郎会食予定困難。首相療養。多摩陵参拝漢詩		
					1931.1.14		2-1-44	若槻礼次郎	漢詩「次桃蹊先生見寄詩韻、以答」		
					1931.1.21		2-1-43-2	若槻礼次郎	若槻礼次郎・渡部寛一郎・牧野鐵篆の鼎座の漢詩		
					1931.1.26		2-1-26	若槻礼次郎	来訪御礼。漢詩		
若槻礼次郎 ②1931.4.14					1931.5.24		2-1-2-2	若槻徳子	好物恵贈御礼		1931.4.-1931.12. 内閣総理大臣
犬養　毅 1931.12.13	60	1931.12.26 1932.1.21 解散	18	1932.2.20	1932.1.31		2-1-3	若槻礼次郎	佐藤喜八郎の立候補断念に関し同家事情と選挙区情勢		
斎藤実 1932.5.26	63	1932.8.23 1932.9.4			1932.10.17		2-1-20	若槻礼次郎	村上琴屋死去追悼。追悼漢詩		
					1933.1.18		2-1-21	若槻礼次郎	渡部寛一郎の来訪時の不在を詫び、21日に詩話・粗餐に招待		
					1933.5.9		2-1-24	若槻礼次郎	葛見神社に関する問い合わせに回答。雑賀小学校創立60周年祝賀の漢詩		
					1933.12.8		2-1-8	若槻礼次郎	見舞いと漢詩贈与に御礼。国家を詠む漢詩二首ほか。剪淞吟社に寄附申し出		

内　閣（総理大臣・発足年月日）	帝国議会		総選挙		渡部寛一郎宛書簡					渡部寛一郎経歴	若槻礼次郎経歴
	回	開会年月日 閉会年月日	回	執行日	発信年月日	史料番号	目録番号	発信人	内容		
斎藤実	65	1933.12.26 1934.3.29			1934.3.29	次号掲載予定	2-1-7-1	若槻礼次郎	渡部寛一郎著書送付御礼。若槻夫妻の伊東転地療養。漢詩三首		
岡田啓介 1934.7.8	67 68	1934.12.26 1935.3.25 1935.12.26 1936.1.21 解散	19	1936.2.20	1935.8.7 1936.1.26 1936.1.27		2-1-34 2-1-16 2-1-28	若槻礼次郎 若槻礼次郎 若槻礼次郎	片瀬別荘を売却し山中湖畔に別荘購入。半月荘と命名した趣意。漢詩二首 前年11月から風邪、伊東に転地。衆議院解散で23日に急遽帰京。元旦所感漢詩 渡部寛一郎の漢詩を回示された牧野鐵篋の返書送付。『花香月影』掲載の見込み		1934. 立憲民政党総裁辞任
広田弘毅 1936.3.9					1936.4.11		2-1-14	若槻礼次郎	渡部寛一郎送付の詩に敬服。牧野鐵篋・谷口廻瀾来訪。自作詩集掲載詩を披露	1936.8　歌集『五十の藻屑』出版	
林銑十郎内閣（1937.2.2）……書簡なし											
近衛文麿① 1937.6.4	73	1937.12.26 1938.3.26			1938.3.12 1938.5.	次号掲載予定	2-1-50 2-1-4	若槻礼次郎 若槻礼次郎	渡部寛一郎の訃報電報を受け、弔電発し、弔意を述べる 渡部寛一郎追憶・顕彰漢詩	1938.3.10 自宅で死去	

出典：若槻礼次郎・若槻徳子発渡部寛一郎宛書簡、原一雄編著・原洋二校訂『渡部寛一郎の生涯』（私家版）、2009年、若槻礼次郎『古風庵回顧録』読売新聞社、1950年、遠山茂樹・安達淑子編著『近代日本政治史必携』岩波書店、1961年により作成

注：1　表中の「渡部寛一郎宛書簡」には、本誌次号掲載予定分を含む。
　　2　桂太郎③は、第三次桂太郎内閣であることを示す。以下同じ

Reprint;Letters from Wakatsuki Reijirou to Watanabe Kanichirou:1913-1925

Research Project on Works of Watanabe Kanichirou

〔Abstract〕

This text is part of the documents relating to Watanabe Kanichirou which descends to his great-grandchild.

Wakatsuki Reijirou(1866-1949), the 25th and 28th Prime Minister of Japan(Belonging to Kenseikai party), wrote a lot of letters to Watanabe Kanichirou(1854-1938),who was an influential educator in Shimane prefecture and the head of the society in support of Wakatsuki (Kokudoukai).

Here we transcribe the first half of Wakatsuki's letters. In these letters we can perceive the relationship between statesmen of central government and local intellectuals in those days. Exchanging Kanshi poems (Chinese style poems) on letters was very important for such relationship.

Key words：Wakatsuki Reijirou, Watanabe Kanichirou,Kokudoukai,Kenseikai,Kanshi poems

「翻刻 渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡」

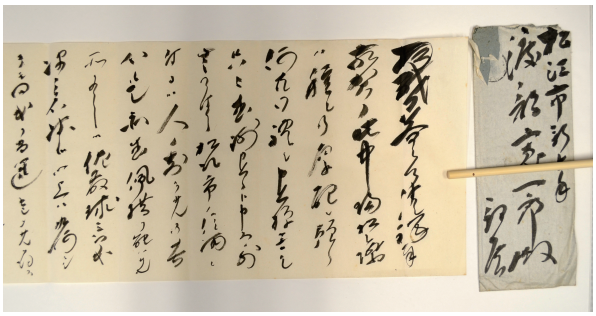
渡部寛一郎文書研究会

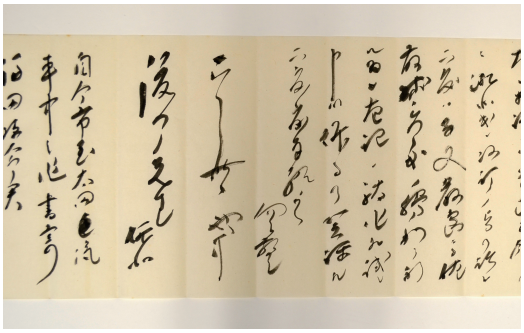
【図１（左）】〔史料番号 14〕
若槻礼次郎発渡部寛一郎宛杓子郵便（表）
1924 年（大正 13）3 月 29 日付
（宛名）「松江市新土手
渡部寛一郎殿」

【図２（右）】〔史料番号 14〕
若槻礼次郎発渡部寛一郎宛杓子郵便（裏）
（文面）「必勝ヲ期ス
三月廿九日
若槻礼次郎」
（焼印）「宮島」
（標章）「宮忠製」

【図３】〔史料番号 15 冒頭〕
若槻礼次郎発
渡部寛一郎宛書簡①
1924 年（大正 13）3 月 30 日

「……佐藤球三郎氏決意致候
以上ハ如何ニシテモ同氏
ヲ当選セシメサルヲ得ス……」
と記されている



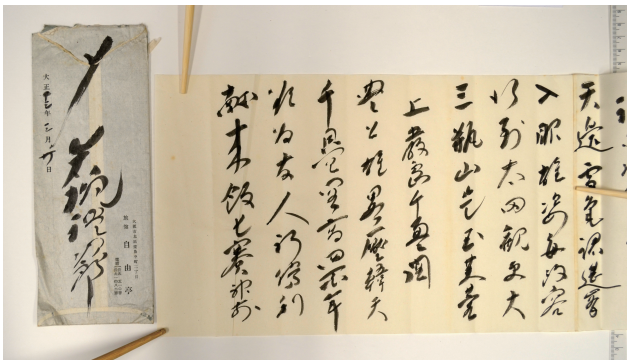


【図４】〔史料番号 15 中〕
若槻礼次郎発
渡部寛一郎宛書簡②

「……尚又厳島ニテ佐藤球三郎氏
ノ勝利ヲ祈ル為ニ左記ノ駄作相試
ミ申候……」
と記されている

【図５】〔史料番号 15 末尾〕
若槻礼次郎発
渡部寛一郎宛書簡③

「上厳島千畳閣
豊公雄略壓韓天
千畳閣高四百年
欲為友人祈勝利
献来飯匕賽神前」
の漢詩が末尾にみえる



〔図版解説〕

【図１】【図２】は、3 月 29 日付の渡部寛一郎宛若槻礼次郎「杓子郵便」（宮島・宮忠製。史料番号 14）である。消印の文字は判読し難いが、【図３】～【図５】の同じく渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡（史料番号 15）の記載と照合して、1924 年（大正 13）と確定できる。

1924 年 5 月 10 日、第二次護憲運動の中、清浦奎吾内閣の下で第 15 回衆議院議員総選挙が実施された。その選挙戦に際し、若槻礼次郎は３月に島根県に帰り、広島等を巡回遊説して東京に戻っている。【図３】～【図５】の渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡（史料番号 15）には、松江選挙区で佐藤球三郎が立候補を決意したので当選を期さねばならないこと、そのため、厳島神社で佐藤の必勝を祈願したことを漢詩に詠んだと記されている。同書簡の末尾には「上厳島千畳閣」と題する漢詩が載せられ、「友人」（佐藤球三郎）の選挙戦での勝利を祈念して「飯匕」（しゃもじ）を賽ったと詠んでいる。「杓子郵便」に記されている「必勝ヲ期ス」の意味するところは、1924 年の総選挙における佐藤球三郎の必勝を期すものであった。

〔史料考証・居石由樹子〕